

観測部月報

Monthly Report, Observing Section, O. A. A.

★

東亞天文協會

★流星課 METEORS (135) 課長 小横孝二郎 (Koziro Komaki, President)

四月に入れば、寒さもづつと和らぎ、夜の観測もらくになる。20日前後、琴座群が活動するのであるが、本年は丁度満月の頃に當るので、観測は困難である。主な輻射點を下に示す。April Meteors:

出現期間	α	δ	附近の星	性 状 其 他
四月 5日—25日	210°	-10°	乙 女 κ	緩、火球を含む
5日—20日	231	+27	冠 α	
15日—25日	270	+33	琴 κ	速、顯著、輻射點移動
月 末	291	+59	龍 δ	
x	x	x	x	x

今回は、昨年九月より十二月までの結果を掲載する。Reports of observed meteors in Sept.—Dec., 1942, are followings:

流星群の出現状況 Summary of swarms.

十月のオリオン流星群は観測数少く、出現状態を詳にし得なかつた。21日曉の川人氏の観測では一時間5個以上を見てゐるが、極大前とは云へ、出現数は例年に比し貧弱である。Orionids were poor and Kw saw over 5 per hour on Oct. 21.

十一月の獅子座流星群はやはり17日朝が、最も多かつた様であるが、出現程度は年々減つてゐることが推察出来る。同月7—8日の夜半後、諫早市(長崎縣)の北村、山口兩氏は牛座 λ Tau 附近 ($\alpha=58^\circ$, $\delta=+13^\circ$) に輻射點を有する、かなり盛な流星群を見られた。恐らくエンケ彗星と一聯の繋りをもつものであらう。Leonids seem to decrease yearly, maximum being morning of Nov. 17. A rather active swarm, radiating from λ Tau, was observed by (KM) and (YG) on Nov. 7—8, probably relating to Comet Encke.

十二月の双子座流星群は、14日朝に極大があつた事はほぼ確かであるが、13日及び15日曉の出現もかなり盛であつた様である。東京市の齋藤氏は13—14日の終夜観測を敢行され、計600分の間に239個を記録されたが、一時間毎の

双子群の流星数は下表の通りであつた。December Geminids were fairly rich on mornings of Dec. 13—15, its maximum being about on the 14th. Sr observed for the whole night on 13—14th, recording 239 meteors during 600 minutes, of which Geminids were hourly as follows:

區 Interval, on Nov. 13-14th, 1942	時間數 Period	双子群 Geminid	一時間平均數 Hourly mean	Factor	修正平均數 Corrected mean
$\begin{smallmatrix} h & m \\ 19 \text{時} & 15 \text{分} \end{smallmatrix} - \begin{smallmatrix} h & m \\ 20 \text{時} & 00 \text{分} \end{smallmatrix}$	$\begin{smallmatrix} m \\ 45 \text{分} \end{smallmatrix}$	3	4.0	0.65	6.2
20 00 — 21 00	60	5	5.0	0.75	6.7
21 00 — 22 00	60	9	9.0	0.85	10.1
22 00 — 23 00	60	13	13.0	0.9	14.4
23 00 — 24 00	55	18	19.6	0.9	20.8
0 00 — 1 00	60	18	18.0	0.8	22.5
1 00 — 2 00	60	22	22.0	0.8	27.5
2 00 — 3 00	50	13	15.6	0.7	22.3
3 00 — 4 00	60	19	19.0	0.8	23.8
4 00 — 5 00	60	11	11.0	0.7	15.7
5 00 — 5 30	30	6	12.0	0.7	17.3

この外、齋藤氏は十一月 7 日より 13 日に亙る數回の流星観測中、下記の二つの輻射點を得られた。From the observations on Nov. 7—13, Sr moreover obtained following 2 radiant, by which he computed parabolic orbits similar to the Comets 1905 V (Schaer) and 1826 IV (Pons-Gambart) respectively.

十一月 Nov. 12.^d 19 日 (J. C. S. T.) $\alpha = 169.^{\circ}5$, $\delta = +26.^{\circ}2$

十一月 Nov. 13.^d 18 4 日 (J. C. S. T.) $\alpha = 128.^{\circ}6$, $\delta = +5.^{\circ}2$

同氏はこの輻射點より、拋物線軌道を計算され、夫々 1905 V (Schaer) 及び 1826 IV (Pons-Gambart) の兩彗星の軌道に類似せることを指摘された。(急報第 583 號参照)

以上の外、北村敏資氏の主宰せる諫早観測隊では、十一月 1 日より 10 日に亙る観測に於て、7 人の観測者により、延日數 12 日、時間數 481 分、流星數 67 個を得てゐる。

又、東京星の會より、報告“流れ星”を受取つたが、これには同會で行はれた流星観測の結果を掲載してゐる。

× × × × × ×

附記 同期間に得られた輻射點及び火球は別に報告する筈である。Radiants and Fireballs during this period will be reported later.

觀測者及觀測地 (Observers and Localities)

觀測者 Observer	略符 Abbr.	觀測地 Locality	經度(東) Longitude	緯度(北) Latitude
長谷川一郎	Hx	神戸市 Kobe	-135° 11'	+34° 41'
北村敏資	(KM)	長崎縣諫早市 Nagasaki-ken	-130 0	+32 50
川人武正	Kw	香川縣觀音寺 Kagawa-ken	-133 43	+34 8
西尾利夫	Ns	大阪市 Osaka	-135 33	+34 39
山口知弘	(YG)	長崎縣諫早市 Nagasaki-ken	-130 0	+32 50
吉井耕一	Ys	大阪市 Osaka	-135 29	+34 43
岩田二郎*	(IZ)	大阪市 Osaka	-135 31	+34 39
岡泰造*	(OK)	大阪市 Osaka	-135 32	+34 37
小林博*	(KH)	大阪市 Osaka	-135 32	+34 37
松本久儀*	(MH)	大阪市 Osaka	-135 32	+34 37
吉野昭三*	(YN)	大阪府吹田市 Suita	-135 32	+34 45
井上修*	(IO)	大阪市 Osaka	-135 30	+34 39
齋藤馨兒	Sr	東京市 Tokyo	-139 40	+35 38

() 内は假符號 Provisional abbreviations である。* 印は大阪市明星商業觀測班のメンバ | Members of Osaka Meisei Commercial School である。

觀測の概略 Daily Summary of Observations

月日 Date.	觀測者 Obs.	開始 Begins	終了 Ends	時間數 Period	流星 向點 L	觀測方向 Direction of watch	流星數 Meteor 記錄 Rec'd	見タル Seen	F	備考 Re- marks
1942 八月 August										
10-11	Ys	1 ^h 45 ^m	3 ^h 00 ^m	75	48.0	E	15	2		P4
十月 October										
17-18	(KM)	0 55	2 02	67	114.6	Ori	17	15	0.7	O5?
20-21	Kw	3 45	4 45	60	117.7	Gem, Ori	5	5	1.0	O5 <
十一月 November										
15-16	Ys	3 45	4 45	60	143.5	Mon, Cma	5	1		L2
16-17	"	3 12	3 32	20	144.5	Leo	3	0		L1
15-16	Kw	3 00	4 00	60	143.4	Leo	2	0	0.8	L0
16-17	"	3 05	4 05	60	144.5	Leo	9	6	1.0	L6 <
7-8	(KM)	0 50	1 50	60	135.4	Tau	21	5	0.6	λT8
8-9	"	21 15	22 25	70	136.3	Tau, And	17	0	0.5	
2-3	"	19 23	19 50	27	130.2	Peg		7		
3-4	"	19 23	20 17	54	131.2	Peg		15		
12-13	"	20 30	21 00	30	140.2	Per, Z		15		
14-15	"	19 40	21 25	55	142.2	Per, Tau		16		50 ^m 休止
25-26	"	20 07	20 22	15	153.1	Z		9		
26-27	"	20 07	20 23	16	154.1	Z		8		
7-8	(YG)	0 50	1 50	60	135.4	Tau	12	8	0.6	λT5?
7-8	(IZ)	2 00	3 30	90	135.5	Leo	8	8	0.6	
"	(OK)	2 30	4 00	90	135.5	Leo	7	3	0.6	
"	(KH)	2 30	4 00	90	135.5	Leo	8	1	0.6	
"	(MH)	2 30	4 00	90	135.5	Leo	8	2	0.8	

15-16	(YN)	3 10	4 30	80	143.5	Leo	15	3	0.8	
"	(IZ)	2 00	4 00	120	143.4	Leo	24	4	0.8	L14?
16-17	(MH)	2 00	3 30	90	144.5	Leo	16	3	0.7	
"	(OK)	2 00	3 30	90	144.5	Leo	16	3	0.7	
"	(KH)	2 00	3 30	85	144.5	Leo	16	3	0.7	5 ^m 休止
"	(IO)	1 30	2 30	60	144.4	Leo	12	7	0.4	
十二月 December										
11-12	Ys	23 00	24 00	60	169.3		4	0		G2
12-13	"	23 07	1 07	120	170.5	Gem	31	11		G23 + ?
14-15	"	23 00	1 00	120	172.3	Gem	30	1		G19
13-14	Hx	23 00	23 50	50	171.3	Gem	13	1		G5?
13-14	Kw	0 35	1 00	25	171.3	Leo, LMi	7	0	1.0	G7
14-15	"	23 45	0 25	40	172.3	Leo, LMi	4	0	0.9	G4
13-14	(KM)	21 00	22 00	60	171.2	Aur	13	0	0.5	G10
13-14	Ns	2 54	3 30	31	171.4	Ori	18	5		G2?
6-7	(KM)	19 28	20 10	42	164.1	Z		8	1.0	
8-9	"	20 00	20 30	30	166.1	Peg		7	0.8	
9-10	"	19 05	20 25	80	167.1	Aur		23	0.8	
12-13	"	19 15	20 45	90	170.1	Tau		22	0.6	
24-25	"	19 10	20 10	60	182.1	Per		11	0.4	
29-30	"	18 35	20 10	95	187.1	Cas, Tau		16	0.8	
13-14	Sr	19 15	5 30	600	171.3			239	0.8	G137

備考 Remarks: 時刻は日本中央標準時 Time in J. C. S. T. ($\lambda = -135^\circ$)

P: ペルセウス群. Perseids, O: オリオン群 Orionids,
 L: 獅子群 Leonids, λ T: 牛 λ 群 λ -Taurids,
 G: 双子群 Geminids.

正誤: 前號の METEORS (135) は METEORS (134) の誤り.

ERRATUM: In the last report, for METEORS (135) read METEORS (134).

水瓶流星群の観測計畫

五月は4日が新月となる關係で、上旬の水瓶流星群の観測には甚だ好都合である。1941年に豊富なる出現を見せたこの流星群の、今年度の出現は如何であらうか！ 下記のプログラムで観測を計畫した。多數の観測参加を希望する。Plan for May Aquarids:

期間 五月1日—10日

時間 毎日3時—4時(一時間)

方向 近畿班では、津市の上空100軒を視野の中央に入れる様にして、同一流星の獲得と輻射點位置の確定をねらふことにする。

大阪	仰角47°	東5°北	京都	仰角55°	東23°南		
和歌山	"	36°	東25°北	田上	"	60°	東40°南
徳島	"	27°	東23°北	神戸	"	45°	東4°北

他の地方では、之に準じて適當に行はれたい。

(流星課長 小模孝二郎)

★黃道光課 ZODIACAL LIGHTS

高知の秋澤昭二郎氏から、昨年十二月27日夕刻と、今年一月2日夕刻と同27日夕刻の黃道光の觀測報告を受領した。又、佛印派遣の田村中尉から一月25日の夕空の黃道光を報告された。何れも黃道帶が著しい。今年初は田上でも、非常に長い黃道帶の著しいものを屢々觀測した。黃道光は都會地では非常に觀測が困難であるが、地方では比較的容易であるから、月光のない夜など、特に注意して、其の光度や形狀と其の變動を見て報告して貰ひたい。

昨年末から今年初めにかけての黃道光は、スベラしい黃道帶が、毎夜、子午線を越えるあたりにまで見えて美しかつた。明るさも立派なものだつた。田村中尉の報告にも明らかであるが、南方で見る黃道光は、ピラミッド形が多いらしい。これはエジプトの天文學や文化史と考へ合はせて甚だ興味あることと思はれる。(山本)

★太陽課 SUN

本課に於いて毎月一頁を費して載せる黒點相對數の表は、決して之が最終的な報告ではないのである。天界やブレテンの舊號を見れば明らかである通り黒點相對數としては三澤氏や木邊氏の結果が立派なものであるから、其れのみを標準として、以前には毎號掲げてゐたのであるが、全體の綜合的統計は5年とか10年とかを纏めて計算する(天界第63號を見られよ)のであるから、それまでの間、三澤氏や木邊氏以外の觀測報告を只課長の手許に保存して置くだけでは觀測者の張り合ひも有るまいと思ひ、“報告受領證”の代りとして、こんな表を天界第63號以來發表することにしたのである。もはや今日は整理すべき材料も1926年2月以來17ケ年に渡つて保有してゐるのであるから、近いうちに久しぶりの綜合結果を計算したいと思つてゐる。近年、大石、蔡、平井諸氏が此の太陽課の報告の一部分を種々な形で研究し、本誌に發表せられたが、上記の事情を充分承知せられて、今、暫く御待ち願ひたいものである。

去十二月の報告は淋しかつたが、この一月分は甚だ賑やかな報告が澤山集まつた。東京の保積、高杉兩氏や、高知の秋澤氏は殆んど無缺の觀測を遂行せられた。何卒、他の人々も大に奮勵して、せめて毎月20ケ日以上(出來れば25日以上)を送つて貰ひたい。十數年以前の觀測者は皆非常に責任感の強い人が多くて、惡天氣以外に、缺測と言ふやうなものは稀であつた。しかるに、此頃は天氣以外の缺測が一般に著しく多くなつたのは残念である。“觀測者は責任感を有つこと”これが最も大切である。學術研究は、戰線上の軍人と同じくマジメに努力してやりたいものである。(山本一清)

太陽黑點相對數報告 (1943年一月) Sun-Spot Relative Nos., January, 1943.

觀測者 Obs. (觀測地)	津留 繁雄 (熊本市)	西山 峰雄 (福岡市)	秋澤 昭二郎 (高知市)	正田 源一 (大阪市)	吉田 昭三 (大阪市)	西尾 利夫 (大阪市)	植田 耕作 (大阪市)	木邊 成磨 (滋賀縣)	竹內 潤 (名古屋)	金田 伊三吉 (石川縣)	沓掛 七二 (長野縣)	水池 敦 (東京市)	保積 善太郎 (東京市)	高杉 重春 (東京市)
	Tr	MN	SA	GH	SY	No	KU	Kb	Tu	Kd	Kk	AM	Hz	Ti
口徑 mm	122	50	32	38	100	105	32	75	32	55	102	150	76	55
倍率 ×	48	45	54	65	75	75	50	60	50	64	75	90	64	64
方法	P	D	P	D	D	P	D	D				Ph	D	
1	11	11	12	11	C	11	M	11		11	C		11	11
2	11	11	12	11	C	11	M	11		11	C		11	11
3	C	C	11	11	M	11	M	11			C		11	11
4	11	11	11	11	M	0	M	11			M		11	11
5	0	0	0	0	C	0	0	M		0	M		0	0
6	S	C	0	0	16	M	11	M			M		0	0
7	11	S	11	11	C	M	11	M			11		12	11
8	C	M	11	14	C	M	M	M	18		C		15	11
9	18	14	11	M	24	15	C	16	16		16		16	13
10	C	13	12	13	M	M	C	M	17	15	15		15	12
11	R	S	15	R	R	M	R	16			R	R	14	R
12	S	M	13	M	C	13	M	15	20		C	22	13	13
13	12	13	13	C	0	M	11	14			12	21	13	11
14	12	0	12	0	0	11	0	13	0	0	12	13	13	11
15	C	0	11?	M	0	0	C	0	0	0	C	0	0	0
16	0	0	11	0	0	0	0	0	0		0	M	0	0
17	0	0	0	0	0	0	0	0	0		C	M	0	0
18	14	M	11	11	M	0	0	11	0		23	M	24	0
19	24	M	22	11	14	0	13	11	13	11	22	14	22	11
20	14	27	22	M	20	13	13	26	15	26	26	32	25	14
21	37	36	13	35	29	13	M	38	14	26	C	37	35	12
22	R	C	R	C	C	M	C	C		36	C	38	35	23
23	35	22	25	M	0	23	R	22	14		C	M	36	22
24	22	22	33	11	M	M	C	22			C	13	34	22
25	C	M	C	M	C	22	C	M	14		22	11	35	22
26	M	13	23	13	C	14	M	26			14	M	23	13
27	M	11	34	M	19	11	C	14			C	12	12	11
28	M	11	33	C	C	11	C	11	15		C	11	11	11
29	M	C	C	M	C	0	C	M			11		11	11
30	M	M	11	M	C	M	0	M	0		M		0	0
31	M	M	23	0	R	0	S	M			C		0	0
平均 Mean	15	12	15	9	10	8	5	18	9	14	17	18	15	10
日數 Days	16	18	28	18	12	22	11	21	16	10	11	12	31	30

注意 N.B.: P=投影 Projection; D=直視 Direct vision; Ph=寫真 Photography; C=曇 Cloud; R=雨 Rain; S=雪 Snow; M=缺測 Missed.